

竜胆

市川茂子

ひと時のゲリラ雷雨の過ぎしあとビルの間あいより夕虹かかる
湧き起こる雨雲たちまち広がりて入陽を覆い暮れてゆくなり
太陽の熱きをなげくこの夏の夜空を見上げ月に寄りゆく
亡つまき夫の連れ行きしごと盂蘭盆を終えて静かに媪おうな逝きたり

戦いの海に散りたる父遙か海の色せる竜胆りんどう供う

米寿とて祝いの買物券を受く先祖に告げん供え物して

長らえて来し方をただ幻とあしたのことに思いめぐらす

コロナにて変るくらしの様相に何もせぬまま過ぎる明け暮れ

いまさらに新たなくらし如何とう君も年寄りわれも年寄る

路地の角カーブミラーは付けられて老いの姿を写して行き来す